KEIZAI DOYUKAI
広島経済同友会
尾　道　支　部

令和７年４月号

発行日　令和7年4月21日発行
発行者　広島経済同友会尾道支部
住　所　尾道市土堂2-10-3　尾道商工会議所ビル3F
TEL.0848-23-2222　FAX.0848-23-3333
E-mail：onodoyuk@urban.ne.jp

広島経済同友会尾道支部
令和7年度事業計画
～魅力あるまちづくり～

広島経済同友会尾道支部　支部長　寺本　吉孝

“道の精なると精ならざると、業の成ると成らざるとは、志の立つと立たざるとに在るのみ。故に士たる者は其の志を立てざるべからず。”
　吉田松蔭の言葉です。
　現代に置き換えれるならば、
「物事が成るか否かは、すべて自分がどれだけ強い志を持てるかにかかっている。志のあるところに、道は拓ける。」
　まさに、今私たちに必要な言葉ではないでしょうか。

　現在、世界に目を向ければ、自国や自分本意な理屈が当たり前のように跋扈し、各地で紛争が続いています。終息の糸口は見えず、グローバル経済にも暗い影を落としています。

　一方、国内を見渡せば円安や物価の上昇などにより、国民生活に深刻な影響が及んでいます。この流れが続けば、我が国自体の価値の低下、地域経済活動への影響も危惧されております。
　また、日本では人口減少・少子高齢化や生産年齢人口の減少も大きな問題になっています。広島県全体では県外転出超過が4年連続全国最多となり、とりわけ尾道市では630人以上の転出超過者がおり、今後もこの流れが進むことが考えられます。それに加え、市内の12～39歳の若ものへのアンケート調査では32.1％の人が「住み続けたくない」とも回答しています。尾道市の新生児出生数は近年減少が続き、2024年はとうとう500人余りになってしまいました。この数字は、数年後に直面する“担い手不在”の現実を明確に示しています。

　少子高齢化の流れは止めることはできないかもしれません。しかし、「若ものがこの尾道に帰ってきたいと思えるまち」「若ものが尾道に住みたいと思えるまち」魅力あふれる尾道にすることは今からでも決して遅くはありません。そのためには今、我々は行動を起こし、「尾道の特性を活かした産業の活性化よるまちづくり」が必要なのではあるのではないでしょうか。

　広島経済同友会尾道支部は2023年に提言書「尾道みらいビジョン2023」を発表しております。尾道の魅力を活かし、未来を見据えた戦略的な取り組みが求められています。
　この提言書の実現に向け、尾道市の魅力・価値を増やす努力を積極的に取り組んでいきます。

「良いことをするにも勇気がいる。」
　われわれ経済同友会は高い志を持って、地域経済の持続的成長のために会員一丸となって行動してまいります。

〈令和7年度基本方針〉

1.地域経済の活性化と地域価値の創造

2.地域諸団体との積極的な連携

3.会員拡大と相互交流の推進

会員の拡大と交流

広島経済同友会尾道支部　副支部長　池田　　寛

この度、寺本支部長よりご指名いただき、副支部長を拝命いたしました。

担当委員会は、ひとづくり委員会、交流・拡大委員会です。

支部長の掲げる「魅力あるまちづくり」を共に取り組んでいただける仲間を増やすべく、委員長と連携しながら新入会員の拡大や、会員間の親睦を深めるための交流事業を企画していきたいと思っています。

１年間、どうぞよろしくお願いいたします。

魅力の追求と実現

広島経済同友会尾道支部　副支部長　河本　泰行

この度、（しごとづくり担当）副支部長を拝命し、大変光栄に存じます。

尾道の未来を考えると、「魅力の追求と実現」が必須と考えます。住みたい環境、育てたい環境、働きたい環境これら全てが揃わなければ人口減は日本全体の趨勢からも不可避であると思います。

「ものづくり委員会」と「経営研究委員会」を通じて、民間企業の目線で現実的かつ持続可能な取り組みを模索し、我々が自ら実行することはもちろん行政への働きかけも含めて出来ることは全て行えるような足がかりを作り実現できたらと思います。

皆様とともに知恵を出し合い、挑戦を重ねてまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

尾道市の更なる発展に向けた活発な議論を

広島経済同友会尾道支部　副支部長　髙垣　孝久

史上最多のインバウンドが日本を訪れ、各地で大きな賑わいを見せております。観光庁によると、輸出産業の中で1位の自動車産業につぐ外貨獲得の産業に発展しているそうです。東京はもちろん、大阪では万博が55年ぶりに開催され大きな盛り上がりを見せ、瀬戸内の広島市や福山市、高松市に外資系のラグジュアリーホテルや星野リゾートなどの人気施設の開業が相次いで発表されました。

一方、観光庁の2024年7-9月期「インバウンド消費動向調査」によりますと、日本全体でのインバウンド消費額の中で、中四国9県の割合は1.6%、3大都市圏の割合は70%と、エリアで大きな違いがあります。世界遺産の宮島や原爆ドームがあっても、中四国ではほとんど消費されていないといっても過言でありません。

人口減少が50年以上続いている尾道市の現状は決して楽観的ではありませんが、「尾道の特性を活かした産業の活性化によるまちづくり」実現の為に、2市3町の合併から20周年を迎えた本年こそ、観光業はもちろん、観光業以外の産業も含めた包括的で実利の有る活発的な議論を、行政や他の経済団体とも連携して深めて参りたいと思います。

富山視察研修旅行

開 催 日 時：令和７年２月9日（日）～２月11日（火・祝）
視　　察：富山県（富山市および周辺）
宿　泊　先：ダブルツリーbyヒルトン富山
参　加　者：12名
担当委員会：交流・拡大委員会　委員長　清水　隆介

2025年２月９日から11日にかけ２泊３日の行程で、令和６年度の支部研修旅行として12名で富山を訪問した。

１日目は雪の影響が懸念されたが、大きな遅延なく到着。昼食後、富岩運河環水公園と富山県美術館を訪れ、立山連峰を背景にした景観や美術作品を鑑賞。夕食は二手にわかれミシュラン一つ星の寿司店にて、北陸の海の幸を堪能した。

２日目は富山市役所を訪問し、まちづくりの取り組みについて講演を受けた後、新湊で運河クルーズやカニ料理を楽しんだ。富山ガラス美術館では、現代ガラス芸術を鑑賞し、ユニークな建築デザインと図書館併設の機能も体感。夜は人気の居酒屋で地酒と地域の味を満喫した。

３日目は岩瀬地区を散策し、歴史的建築や酒蔵を訪問。LRTに乗車し、コンパクトシティ政策の一端を体感した後、富山城前で記念撮影を行い、ミシュラン一つ星の寿司店で最後の食事を楽しんだ。

今回の研修を通じ、富山市の官民一体のまちづくりの行動力と意識の高さに学ぶものが多く、尾道市の発展に生かしたいと考えている。

三原支部との役員交流会

開 催 日 時：令和７年３月12日（水）18：30～21：00
開 催 場 所：グリーンヒルホテル尾道
参　加　者：30名（尾道支部20名、三原支部10名）

3月例会報告

開 催 日 時：令和７年３月18日（火）18：30～20：00
開 催 場 所：尾道商工会議所ビル2階　会議室
担当委員会：尾道を考える委員会
演　　題：「成長する観光産業」
講師／瀬戸内ブランドコーポレーション
取締役投資事業本部長　井坂　晋　氏

会員異動

【新入会員】 柏原 幸史さん 〈山陽船舶電機㈱ 代表取締役社長〉

【交替会員】 佐々木 隆史さん 〈㈱三井住友銀行 山陽中央法人営業部 部長〉 ※旧会員：牛丸 直己さん
新田 一雅さん 〈㈱ちゅピＣＯＭ 尾道局 尾道局長〉 ※旧会員：和田 知己さん
渡辺 泰人さん 〈横浜ゴム㈱ 尾道工場 工場長〉 ※旧会員：村上 徹郎さん

【退会会員】 高橋 直樹さん 〈保険工房アカギ 代表〉
田中 康貴さん 〈大信ホールディングス㈱ 取締役会長〉

入会	交替	退会	増減	会員数
1	3	2	-1	80

※臨時総会以降